Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォ ガイド

2026.6.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

Family Worship

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Cell Group Guide

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

L T G Guide

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（1～３つ）

②１週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

8日　月曜

Ｉコリント

13:8 愛は決して絶えることがありません。預言ならすたれます。異言ならやみます。知識ならすたれます。
13:9 私たちが知るのは一部分、預言するのも一部分であり、
13:10 完全なものが現れたら、部分的なものはすたれるのです。
13:11 私は、幼子であったときには、幼子として話し、幼子として思い、幼子として考えましたが、大人になったとき、幼子のことはやめました。
13:12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。
13:13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

「愛は…絶えることが」ないのですから、もしも何かの理由で誰かを愛せなくなったとしたら、それは愛ではなかったというべきでしょう。ここでの愛は原語では「アガペー」であって、それは無条件の愛です。私たちはこの愛を神様からもらって、（すべてが無価値にならないように）他の人を愛する必要があるのです。また愛せるようにしていただけるのです。

「その時には顔と顔を合わせて見る」と、イエス様にお会いする再臨のことが書かれています。そのときには地上の知識も預言も何もかも、イエス様によって教えられるでしょうから、必要なくなり、「すたれる」のです。ですからどんなに特別な賜物も天に持って行くことはできませんし、その必要もありません。しかし、愛の思いとその行動は永遠に続くのです。もちろん信仰も、そして主にお会いする希望も続きます。

永遠に残るものを追い求めましょう。主から愛をいただき、愛せなくなってしまった人をも愛しましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

9日　火曜

Ⅰコリント

14:1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。
14:2 異言で語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。
14:3 しかし預言する人は、人を育てることばや勧めや慰めを、人に向かって話します。
14:4 異言で語る人は自らを成長させますが、預言する人は教会を成長させます。
14:5 私は、あなたがたがみな異言で語ることを願いますが、それ以上に願うのは、あなたがたが預言することです。異言で語る人がその解き明かしをして教会の成長に役立つのでないかぎり、預言する人のほうがまさっています。
14:6 ですから、兄弟たち。私があなたがたのところに行って異言で語るとしても、啓示か知識か預言か教えによって語るのでなければ、あなたがたに何の益になるでしょう。
14:7 笛や竪琴など、いのちのない楽器でも、変化のある音を出さなければ、何を吹いているのか、何を弾いているのか、どうして分かるでしょうか。
14:8 また、ラッパがはっきりしない音を出したら、だれが戦いの準備をするでしょう。
14:9 同じようにあなたがたも、舌で明瞭なことばを語らなければ、話していることをどうして分かってもらえるでしょうか。空気に向かって話していることになります。
14:10 世界には、おそらく非常に多くの種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばは一つもありません。

Bible Reference 聖書の記述

14:11 それで、もし私がそのことばの意味を知らなければ、私はそれを話す人にとって外国人であり、それを話す人も私には外国人となるでしょう。
14:12 同じようにあなたがたも、御霊の賜物を熱心に求めているのですから、教会を成長させるために、それが豊かに与えられるように求めなさい。

「 愛を追い求めなさい」というのは、ここまでの結論であり、またこれから各論を語るための基礎となるものです。預言と異言のすばらしさや用い方も、愛を動機として行うなら、どうすべきなのかが教えられています。

ところで、「異言は3世紀頃にもう止んでしまった」という教派・神学があります。彼らは現在「異言」と言われているものを認めません。またある教派では異言を尊重するあまり、「異言を語らなければ、聖霊に満たされていない」と言っているところもあります。この異言の問題はそのように非常に混乱が起き易いテーマであり、コリントの教会もまさにその混乱があったようです。

大切なのは聖書から聞き、聖書から逸脱しないこと、そして愛を持って対処するということです。それは異言以外のあらゆる「御霊の賜物」にいえることです。

パウロは異言を肯定しますが、それよりも預言がまさっていると考えています。なぜなら預言は教会の（人々の）徳を高めるからです。この「徳を高める」とは原語では「オイコドメオウ」ということばで、私たちがよく「建て上げる」という意味で使うことばです。人を建て上げて徳を高めて霊的成長を促すことは大切な愛の行いなのです。そのような交わりをしていきましょう。

「黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら」とありますから、異言以外の賜物を持った人も必要です。またそのような内容の文書が主の導きによって厳選されて、後に聖書となりました。ですから私たちにとっては「聖書によって話さないなら」ということになります。異言に限らずあらゆる賜物は、神の言葉である聖書の裏づけと力によって用いられる必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

10日　水曜

Ｉコリント

14:13 そういうわけで、異言で語る人は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。
14:14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈りますが、私の知性は実を結びません。
14:15 それでは、どうすればよいのでしょう。私は霊で祈り、知性でも祈りましょう。霊で賛美し、知性でも賛美しましょう。
14:16 そうでないと、あなたが霊において賛美しても、初心者の席に着いている人は、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。あなたが言っていることが分からないのですから。
14:17 あなたが感謝するのはけっこうですが、そのことでほかの人が育てられるわけではありません。
14:18 私は、あなたがたのだれよりも多くの異言で語っていることを、神に感謝しています。
14:19 しかし教会では、異言で一万のことばを語るよりむしろ、ほかの人たちにも教えるために、私の知性で五つのことばを語りたいと思います。
14:20 兄弟たち、考え方において子どもになってはいけません。悪事においては幼子でありなさい。けれども、考え方においては大人になりなさい。
14:21 律法にこう書かれています。「『わたしは、異国の舌で、異なる唇でこの民に語る。それでも彼らは、わたしの言うことを聞こうとはしない』と主は言われる。」
14:22 それで異言は、信じている者たちのためではなく、信じていない者たちのためのしるしであり、預言は、信じていない者たちのためではなく、信じている者たちのためのしるしです。
14:23 ですから、教会全体が一緒に集まって、皆が異言で語るなら、初心の人か信じていない人が入って来たとき、あなたがたは気が変になっていると言われることにならないでしょうか。
14:24 しかし、皆が預言をするなら、信じていない人や初心の人が入って来たとき、その人は皆に誤りを指摘され、皆に問いただされ、
14:25 心の秘密があらわにされます。こうして、「神が確かにあなたがたの中におられる」と言い、ひれ伏して神を拝むでしょう。

Bible Reference 聖書の記述

異言の起こりは使徒の働きに記されているペンテコステの出来事で、「分かれた舌が現われて…他国のことばで話しだした。」とあるものです。それはバベルの塔以来、言語の違いによって分断されていた民族・国家･文化を越えて、福音が届くという意味なのです。ですから異言について論ずるときはまず、あらゆる人々に届くかどうかが問われます。

またそれとは別の機能で与えられているのが、13章にある「御使いの異言」で、他の人には意味がわからないものです。しかし本人にとっては、主との親しい祈りだという感覚はあります。

このような異言は意味がわからないのですから、わかるように解き明かす必要があります。解き明かすならば、それは預言—すなわち神のことばを預かり、人々に伝えること—になります。ですから必要なのは預言なのです。すなわち神のことばなのです。「預言をするなら…ひれ伏して神を拝むでしょう。」とあります。

これは4節から考えると、教会の徳を高めるためです。賜物は教会の徳を高めるためであり、そのためには預言すなわち神のことばを語り合うことこそが大切なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

11日　木曜

Ｉコリント

14:26 それでは、兄弟たち、どうすればよいのでしょう。あなたがたが集まるときには、それぞれが賛美したり、教えたり、啓示を告げたり、異言を話したり、解き明かしたりすることができます。そのすべてのことを、成長に役立てるためにしなさい。
14:27 だれかが異言で語るのであれば、二人か、多くても三人で順番に行い、一人が解き明かしをしなさい。
14:28 解き明かす者がいなければ、教会では黙っていて、自分に対し、また神に対して語りなさい。
14:29 預言する者たちも、二人か三人が語り、ほかの者たちはそれを吟味しなさい。
14:30 席に着いている別の人に啓示が与えられたら、先に語っていた人は黙りなさい。
14:31 だれでも学び、だれでも励ましが受けられるように、だれでも一人ずつ預言することができるのです。
14:32 預言する者たちの霊は預言する者たちに従います。
14:33 神は混乱の神ではなく、平和の神なのです。聖徒たちのすべての教会で行われているように、
14:34 女の人は教会では黙っていなさい。彼女たちは語ることを許されていません。律法も言っているように、従いなさい。
14:35 もし何かを知りたければ、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、女の人にとって恥ずかしいことなのです。
14:36 神のことばは、あなたがたのところから出たのでしょうか。あるいは、あなたがたにだけ伝わったのでしょうか。

Bible Reference 聖書の記述

14:37 だれかが自分を預言者、あるいは御霊の人と思っているなら、その人は、私があなたがたに書くことが主の命令であることを認めなさい。
14:38 それを無視する人がいるなら、その人は無視されます。
14:39 ですから、私の兄弟たち、預言することを熱心に求めなさい。また、異言で語ることを禁じてはいけません。
14:40 ただ、すべてのことを適切に、秩序正しく行いなさい。

「すべてのことを、徳を高めるために」とあります。それは何としても忘れてはならない目的です。ですから教会では、セルでも会議でも、もちろん礼拝でも、「スムーズにいった」「たくさんの人が来た」「時間通りに終わった」などということよりも重要なことです。その点でどうであったかといつも問う必要があるのです。

コリントの教会ではその目的がずれてしまい、自分の賜物発表の場になっていたようで、先を争って自分の主張をしていたようです。パウロは「順番に」と言わなければならないほどでした。「すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができる。」とパウロが言うように、大切なのは教えることではなく、「学ぶ」こと「勧めを受ける」ことなのです。

世の中では教え語る人の方が優れているように考えられますが、教会ではそれを聞いて成長するほうが大切であり、それの出来る人が優れているのです。

またコリントではある夫人たちの質問や発言のために秩序が乱されていたようです。パウロはその事態を改善するため、当時の習慣に即して彼女たちに控えるように諭しています。彼女たちも異言のように、自分の徳を高めるためではなく、自分の誉れが目的であったのでしょう。

最後に「自分を預言者、あるいは、御霊の人と思う者は」とあります。「わかっている、見えている、与えられている、教えたい」という人は、独善的になりやすいので特別に注意する必要があるからです。「私は御霊に満たされている」という人でも、「認められません」ということがあるのですから、誰でも謙遜になり、パウロを通して主から教えられたことを「認め」ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

12日　金曜

Ⅰコリント

15:1 兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。
15:2 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。
15:3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、
15:4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、
15:5 また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。
15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。
15:7 その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。
15:8 そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。
15:9 私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。
15:10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。
15:11 とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

Bible Reference 聖書の記述

この後の12節に「 …どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。」とありますから、この章では復活を否定する異端的な人々に対して書かれていることが分かります。
教会の礼拝に集う人々には、未信者や求道者の方もいますから、聖書の考えとは違う人々とも親しい交わりをします。しかし聖書の教えすなわち教理に関しては、ノンクリスチャンに合わせて妥協するなどということはありません。
またもしかしたらコリントの教会のように、クリスチャンになっているはずの人々から、聖書にない主張を聞くようなことがあるかもしれません。そのときも「同じ兄弟姉妹だから彼らの意見も取り入れてあげなくては」などと言ってはならないのです。
神のことばを人間の意見で変えてしまうなら、それは人間の考えになってしまいます。人間の考えに立ってしまうなら、歯止めは利かなくなります。救いも永遠の命も、神の愛も消えてしまします。いや、神様ご自身がわからなくなってしまうでしょう。「人の意見を取り入れよう」というのは、愛でも何でもありません。神の永遠の愛から人を引き離してしまうことです。
ですからパウロも「復活はない」という人々に対して、「そういう人もメンバーにいるのだから、その意見を取り入れていきましょう」とは言いません。すでにわかっているようなことでも、福音の基本から語っているのです。
このように教会では、機会を見つけては福音の基礎すなわち教理を確認してゆく必要があります。「分かっているから今さら必要ない」とは言えないのです。

またパウロは単に教理で終わることなく、自分自身の証をしています。確かな救いの教理と自分自身の救いの証…。それらをいつもしっかりと持っていましょう。
ちなみに2章の「救われるのです。」ということばは現在形で書かれていて、ギリシャ語の現在形は「救われているのです。」と訳せることばです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

13日　土曜

Ｉコリント

15:12 ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。
15:13 もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかったでしょう。
15:14 そして、キリストがよみがえらなかったとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。
15:15 私たちは神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。
15:16 もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかったでしょう。
15:17 そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。
15:18 そうだとしたら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったことになります。
15:19 もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。

パウロは32節では、「もし、死者の復活がないのなら、『あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。』ということになるのです。」と言っています。復活というのは単に教理や遠い先の問題ではなく、現在の問題であり、私たちの生き方や教会のあり方に関わってくる、身近な事柄なのです。

Bible Reference 聖書の記述

コリントの教会も、「死者の復活はない、と言っている人」がいたので、人間的な尺度でしか物事が進まず、その結果として混乱を招いたのでしょう。

復活こそ永遠の命の証しであり、神の力の表れであり、福音の真実性であり、聖書の無誤性と一体のものです。そして私たちにとっては、死をも乗り越える希望であり、それだからこそすべてに優る価値なのです。

復活というものを単に象徴的に解釈しようという人々もいます。「弟子たちが献身的にイエスの教えを広めていったことは、まるでイエスが復活したかのようだ。」という理解です。または「目に見えない霊だけが復活した。」と理解する人々もいました。しかしどれも現実の復活とはかけ離れています。

これらの場合パウロは、「 私たちの宣教は実質のないものになり」、「私たちは神について偽証をした者」となり、「信仰はむなしく」、「私たちは…一番哀れな者」になってしまうのだと言っています。

普通に考えても、復活さえも実現できない神が生命を含めた万物を創造できるはずがありません。そんな神を信じても何の希望もありませんし、そのような人生であったなら生きて来た意味もないでしょう。

復活は神の力であり、私たちの希望であり、永遠の保証です。もっと復活を希望として話題にし、喜びとして分かちあっても良いのではないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

14日　日曜

Ⅰコリント

15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。
15:21 死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。
15:22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。
15:23 しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。
15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。
15:25 すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。
15:26 最後の敵として滅ぼされるのは、死です。
15:27 「神は万物をその方の足の下に従わせた」のです。しかし、万物が従わせられたと言うとき、そこには万物をキリストに従わせた方が含まれていないことは明らかです。
15:28 そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

干からびて死んだと思われていた種が多数あって、試しに土に蒔いたところ、一つが発芽し始めてたとします。私たちは「他の種も生きている」と確信することでしょう。イエス様の復活は「私たちも…」と確信させるものです。

Bible Reference 聖書の記述

またある工場の生産ラインで造られた同じタイプの自動車に欠陥があった場合、「他の車にも欠陥がある」と考えざるを得ません。アダムの罪は「私たちにも…」と確信させるものです。
アダムの罪による人間の死…。しかしキリストによる、死からの勝利…。両者は相容れない概念であり、矛盾する事実です。しかし聖書には「死は勝利にのまれた」と宣言されています。その確証としてイエス様がよみがえったという事実があるのです。
それだけでなく、天地を造られた主は、「あらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国」と御手に治めると明言されています。
ですから私たちは、十字架の死者であるイエス様のゆえにバプテスマを受けるのです。（「死者のゆえに」の解釈は、天国に行った信仰者のために、死に至る重篤な人のために…など複数あります。）そしてこのイエス様と一つとされたのですから、「明日は死ぬのだ。」というような刹那的で無目的な生き方はしないのです。
ですからお互いに、「神についての正しい知識を持って」いる者として、互いの信仰を整えて励ますような「友だち」となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？